

地域課題① 広域コミュニティ組織の検討

★具体的取組の例

- 近隣する単位自治組織との情報交換や交流と協力体制の検討
- 広域コミュニティ組織の活動を共有する機会と場づくり
- 単位自治組織の将来像の共有と区長会、自治公民館連絡協議会等との意見交換会の実施

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	36%
取り組まなかった	7	64%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地区の総会において、広域コミュニティ組織設置に向けての区長会提言について説明した。
- ・自治会と公民館の組織一体化の取り組みの中で、福祉、防災活動が重視される状況について、自治会運営委員会で共有する場を作った。
- ・『単位組織の活動低迷』が懸念されているという事だが、当地区では地区公民館を主体にして、年2回ほど住民の交流を図っている。

地域課題② 住民自治組織等の理解促進と事業の見直し

★具体的取組の例

- 近隣する単位自治組織との情報交換や交流と協力体制の検討
- 一体感を醸成するための子どもから高齢者まで参加できる事業の実践
- 市民まちづくり活動促進事業補助金等、地域コミュニティの課題解決のための事業の活用
- 組織や活動等理解してもらえよう総会資料の工夫や広報の検討
- 事業活動の見直しとともに適正な自治会費の検証
- 若者や女性の参画に向けた住民ニーズの把握
- SNSの活用などによる役員負担の減

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	45%
取り組まなかった	6	55%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・コミュニティ助成事業により、エアコン他コミュニティ活動備品を整備した。また、『地区だより』を月1回発行し、情報の共有に努めた。
- ・自治会の会報『茶の間』を年4回発行、自治会活動の理解を求めるよう努力している。
- ・少子高齢化や就労形態の多様化の中で、持続可能な組織作りを目指し、住民自治組織の役割、必要性を明確にし、理解を深め、組織の維持、活性化に向け事業の見直し検討に取り組んだ。令和5年度から自治公民館事業は、自治会事業に継承し、組織一体化により、役員の数減少と報酬を見直し、自治会費の減額にもつなげた。
- ・総会協議事項の進捗状況や地域情報（困り事や危険箇所等）をお知らせ版として発行した。
- ・自治公民館組織の一部であった『若妻会』が会員不足（2名）になったことから、協議を行った。結果令和4年度で解散となった。

地域課題③ 次代を担う人材育成と後継者対策

★具体的取組の例

- 民俗芸能や伝統文化への理解促進と継承活動の支援
- 子どもの頃から地域固有の歴史や文化、伝統、産業などへの理解を促す機会づくり
- 地域の特徴である果樹栽培を始めとした農業の魅力を伝え、若者が就労先の一つとして選択できるような支援
- 結婚を後押しする雰囲気づくりと子育てしやすい環境づくり
- つるおか婚シエルジュの周知と連携
- 若者や女性を登用し、SNSの活用など、得意分野を活かした役割分担により、自分が必要とされている喜びや達成感を感じる仕掛けづくり
- 若者の参画のもと、農業生産者等との連携による環境美化活動等の実施
- 地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	45%
取り組まなかった	6	55%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・民俗芸能の継承活動支援
- ・地区の地蔵様祭りにあわせ、夏祭りを行い、地域の文化への理解を促す機会とした。
- ・自治会組織の人材育成、特に役員のなり手を確保するため、役員の候補者育成も兼ね4つの専門部を設け、それぞれの部長、副部長による事務局体制を作った。
- ・各種会議、集会に積極的に参加をしてもらっている。又、民族芸能も途切れていたが、今後復活のために、今動き出している。

地域課題④ 安全・安心な地域の構築

★具体的取組の例

- 防災意識の高揚を図るための定期的な防災訓練や防災座談会の開催
- 支援が必要な人と支援ができる人の把握と見守り・支え合い体制の仕組みづくり
- 緊急時や災害時に備えた住民情報収集の必要性の確認及び取り扱い方法、活用方法の確立
- 自主防災組織の機能の点検と体制整備
- 消防団活動協力員の加入促進
- 見守り隊の機能の点検と体制整備、青色パトロール隊活動の支援
- 高齢者世帯の増加を見込み、高齢者のニーズ（除雪・買い物・通院等）への支援体制づくり
- 毎月1日に交通安全・防犯の小旗掲揚し、地域ぐるみで交通事故防止・犯罪防止に努める
- 空き家の実態把握、所有者に対する適正管理の指導
- 空き家等に関する転出時の単位自治組織での取り決めの検討
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	11	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・自主防災組織の体制整備。各戸で毎月1日に交通安全、防犯の小旗掲揚を行い、地域ぐるみで交通事故防止・犯罪防止に努めた。また、自治公民館周辺にも掲揚した。
- ・要支援者と支援者の把握、自主防災組織の機能の点検、空き家の実態把握と適正管理
- ・災害時の地区民の安全を確認するための世帯毎の安否確認シートを作成し、毎年シートのメンテナンスを行うとともに、防災の日にあわせ安否確認訓練を行った。

- ・地区の意見や要望を市政に反映していただくことを目的に庁舎と市政座談会を開催した。
- ・自主防災会議を2度開催し、防災訓練の進め方の検討を行ったが、コロナの状況で訓練は中止となった。
- ・要援護者の見直しを行い、要支援者の把握と支援できる人との支え合い体制を確認した。
- ・防犯灯の増設を行い、危険個所の減少を図った。
- ・山添駐在所、西小学校と見守り隊とで、子供達の安全を守るための話し合いを行った。
- ・自主防災計画（令和4年3月策定）に基づき、近年多発する各種災害に対する意識の向上と自主防災会の役割を確認した。防犯パトロール隊、見守り隊の通年活動を支援した。
- ・防災訓練実施
- ・自動車に乗って児童の通学を見守る青色パトロール隊の活動を地区でも支援
- ・空き家などの危険建物を、市の補助金を活用し、取り壊した。
- ・防災組織図の見直しを検討した。

その他

- ・自主防災組織があるものの、その活動、内容について再度検討、精査し、地区全体で取り組む体制にしていく。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・若年層が薄く、高齢者率が高い（45%程度）。又、20～40代の未婚率が高く、全世帯の40%にもなる。高齢者世帯も約18%と多く、今後更なる人口減少と活動の衰退が見込まれ、地区事業等、役員構成のあり方について検討が必要。
- ・少子化と高齢化、空き家の存在
- ・地域活動の担い手であった婦人会、若妻会、老人クラブ、青年団等の地縁的団体が衰退している。これらの団体には従前は全世帯が加入していたが、その網羅性が崩れ、担ってきた機能をどう維持していくかが課題となっている。
- ・地区役員の受け手がない。
- ・コロナの影響か自分本位の考えが特に目立つようになった。
- ・地区内の団体組織、後継者が育たない。
- ・女性の役員登用が難しい。
- ・地区行事等への参加者不足

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・写真集を制作し、集落の様子を写した写真を元に歴史を伝えるとともに、地域に愛着や関心を持ってもらう。
- ・櫛引地域防災計画と連携した『地区防災計画』の作成
- ・コロナ禍で休んでしまった各事業を再開したいが、世の中が変わってしまっていて以前のように人が集まるか心配
- ・当地区では『ふるさとむら宝谷』を公民館的利用という事で使用しているが、建物自体が25年も経過し、老朽化が進んでいる。そのため、『ふるさとむら宝谷』、地区公民館で話し合いを持ち、屋根の塗装、外壁の修理に取り組みたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・ 広域コミュニティの組織化に向けて、市からはもっと積極的な説明や支援をお願いしたい。
- ・ 令和5年度は地区民への広域コミュニティについての説明会を計画する。
- ・ 新規の入居が多いことから、隣組のつながりが希薄に感じられる。
- ・ 昔ながらの助け合いの心が薄く感じられる。
- ・ 以前と比較して、地区役員や地区運営の担い手に苦慮するようになったと感じている（自分がしなくても誰かがやってくれるという気持ちが強くなっているように感じられる）。
- ・ 地区に新しく居住する方の状況把握が難しいことと、自治会入会や自治会費の納入などで苦慮する場面が出てきている。住民登録の手続きの際、自治会入会について、説明を行ってほしい。